

「流山市グリーンチェーン景観計画」に資する大字の由来より捉えた景観資源に関する研究

日本大学 正会員 ○押田 佳子
日本大学 正会員 横内 憲久
日本大学 正会員 岡田 智秀

1. 研究の背景および目的

2005(平成17)年の「つくばエクスプレス(以下、TX線)」の開通に伴う沿線開発による周辺緑地の減少(1)を危惧した流山市は、2007(平成19)年に「流山市景観計画グリーンチェーン景観計画(以下、グリーンチェーン景観計画)」を策定し、豊かな緑地景観の保全・再生を推進している(2)。しかしながら、グリーンチェーン景観計画では、新川耕地地区など景観計画重点区域を核とした緑の景観保全計画を謳ってはいるものの、その具体的な緑地像については依然として検討段階にある。今後、グリーンチェーン景観計画における具体的な緑地像を示すためには、まず、市域に根付いた景観資源を捉える必要がある。この考えのもと、「字名」がその地域の根源的な地理的・景観的特徴を多分に反映される場合が多いことを踏まえ、本稿では、大字の地名由来とその地理的分布に着目し、流山市内の緑に由来する伝統的な景観資源を把握することを目的とする。

2. 研究方法

流山市内の大字の分布状況については、1880(明治13)年と2006(平成18)年において、その分布状況が特定可能な資料が入手できたことより、この2時期を分析対象とした。

大字の由来については、流山市内の大字の由来を網羅していた千葉県地名由来辞典(5)と地名語源辞典(6)の2文献を分析対象とした(表-1)(3)(4)。

3. 大字の地名由来とその地理的分布

文献調査結果より大字の地名由来を特徴ごとに7分類した(表-2)(5)(6)。以下に各時期における結果を述べる。

(1)1880(明治13)年の大字：当時存在した大字は全42件であった(表-2, 図-1)。このうち「地形」を由来とするものが20件と最も多く、次いで「位置」が8件、「所在」が7件、「人物」「物語」が各4件、「転訛」が1件、「不明」が3件であった。そこで、最も件数が多かった「地形」に関する由来を表-2, 3, 図-1をもとに以下に言及する。

「地形」を由来とする大字は、江戸川沿いの連続した崖が一旦切れて谷状になったことに起因する「桐ヶ谷」など、

表-1 調査概要

Table with 2 columns: 調査対象文献, 調査内容. Rows include 流山市史-民俗編, 揺れやすさマップ, 千葉県地名由来辞典, 地名語源辞典.

表-2 地名由来に基づく分類項目と該当件数(重複含む)注

Table with 4 columns: 項目, 意味, 明治13年, 平成18年. Rows include 地形, 位置, 所在, 人物, 物語, 転訛, 不明.

【凡例】( ) : 新設され、かつ現存する大字の件数
注：明治18年時に大字由来が重複するもの5件、平成17年時の8件を含む

表-3 2時期における「地形」に関する大字および由来一覧

Table with 4 columns: 大字名, 由来, 出典, 合計 (明治13年, 平成18年). Lists 15 items related to '地形' with their origins and source documents.

【凡例】 [ ] : 明治13年時より存在する大字 [ ] : 明治13年以降に新設された現存する大字 番号：図-1, 2の【大字リスト】の番号に対応

キーワード 景観資源, 大字, 流山市グリーンチェーン景観計画, 緑地, 流山市

連絡先 〒274-8501千葉県船橋市習志野台7-24-1日本大学理工学部社会交通工学科 TEL047-469-5507

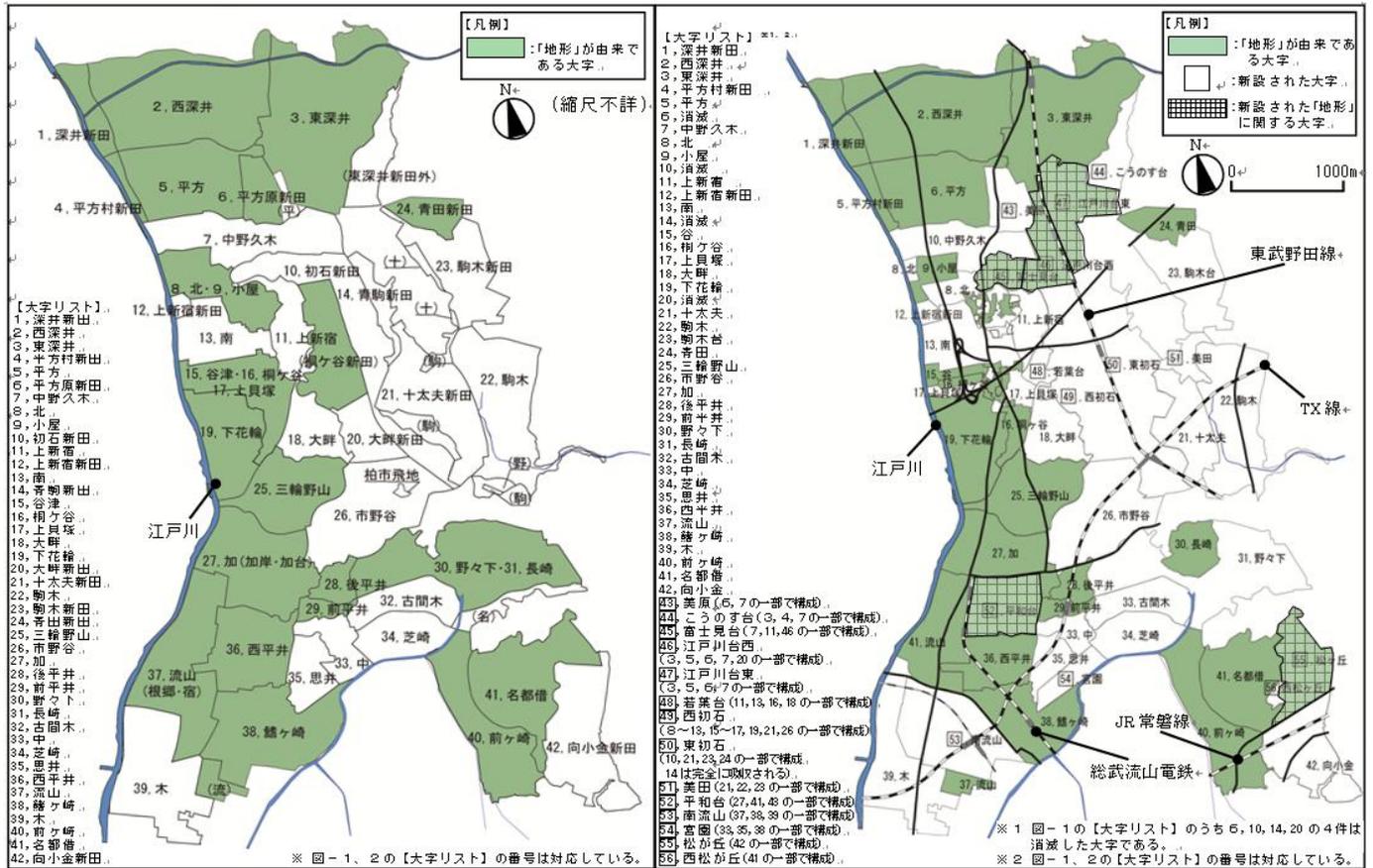


図-1 明治13年時における大字の分布状況(文献3をもとに著者作成)

図-2 平成18年時における大字の分布状況(文献4をもとに著者作成)

江戸川付近にみられる谷津特有の地形起伏によって特徴づけられる。これは、大河川である江戸川の影響を受けて成立した崖や谷が人々の生活界を規定したことより、その形状が大字名にあてられたと類推される。一方、江戸川から離れた市内南東部においても、舌状に突き出した台地に由来する「前ヶ崎」のように、地形起伏に由来する大字が多くみられた。以上の傾向より、流山市域では、江戸川をはじめとする河川の影響を受けて成立する地形起伏が農地や住宅地などを分割することから、地形が大字名に反映されやすい傾向が捉えられた。

(2) 2006(平成18)年までに新設された大字：2006(平成18)年の大字は全52件であり(図-2)、このうち1880(明治13)年以降新設された大字は14件であった。表-2より新設された大字の由来をみると、明治時代同様、「地形」が5件と最も多く、次いで「位置」が4件、「所在」が2件、「人物」が1件、「不明」が4件であった。

以下、前節と同様に、件数が多かった「地形」に関する由来について言及する。1880(明治13)年時以降に新設された「地形」に由来する大字は、「江戸川台西」など5件であり、このうち呼称に「台」と付く大字が4件みられる。これは、「江戸川台西」などが、江戸川沿いの台地上に位置することに起因するとみられる。また、「松ヶ丘(1961年設立)」は、松林の丘陵地に由来しており、従来の「地形」に加え、流山市の大字では初めて「緑地」が由来となっている<sup>5)</sup>。この背景には、約80年におよぶ時代経過の中で、1950年代以降に急進した宅地造成を転機とし、それまで住民に特に意識されていなかった「緑地」が、その後地域の特徴を表すものとして認識されたと類推される。

#### 4. 大字の由来より捉えた流山市の景観資源

以上より、大字の由来より捉えた流山市の景観資源として、河川の影響を受けて成立した起伏に富んだ地形が最も特徴的であることを明らかとした。一方で、グリーンチェーン景観計画の景観保全対象に掲げる緑地(樹林地)を由来とする大字は「松ヶ丘」のみであり、字名の由来からみると、緑地は流山市を特徴づける伝統的な景観資源として認識されにくかった実態が捉えられた。このことより、市内の緑地は現在もなお進行している都市開発などによって減少したことを背景に、近年、ようやく意識されはじめた景観資源であると考えられよう。

##### 【参考文献】

- 1) 宮森隆・横内憲久・岡田智秀・押田佳子:「千葉県流山市における緑地保全・再生施策に関する研究」,日本建築学会大会学術講演梗概集,635~636,2008,9
- 2) 流山市都市計画課:「流山市景観計画」,流山市,2007,12
- 3) 流山市博物館:「流山市史 民俗編」,流山市,1990,3
- 4) 流山市建築住宅課:「揺れやすさマップ」,流山市,2009
- 5) 小林茂多:「千葉県地名由来事典」,1999
- 6) 山中襄太:「地名由来辞典」,校倉書房,1968,9